

巻頭言

熊本県立天草高等学校
校長 平田 浩一



昨年5月、年号が「令和」に変わり新たな時代を迎えました。社会も Society5.0 が訪れ、情報化や人工知能の活用が飛躍的に進出し、これまでに経験したことのない急激な変化が起こると言われています。どのような社会にあっても、よりよい社会づくりに力を発揮するのがサイエンスであり、私たちに求められているのは、新しい時代の担い手として、科学技術に夢と希望を持ち創造性豊かな人材を育成することであると考えます。

さて、本校は平成29年4月からSSHの指定を受け、「サイエンスの宝島『天草』から世界へ」を合い言葉に、「地域の豊かな自然環境の中で多様な能力を身に付け、世界に飛躍する科学技術人材の育成を目指す」のテーマのもと、研究開発に取り組んできました。

3年目を迎えた今年度は、探究活動については、これまで実施してきたAS（天草サイエンス）Ⅰ及びASⅡの充実改善を図るとともに、新たにASⅢの開講と実践に取り組みました。教育課程については、新たに学校設定科目である数科学探究Ⅱの開発に取り組むとともに全校を上げた授業改善にも取り組んだところです。また、関西研修やマレーシア研修など昨年度までのプログラムの改善を図り、グローバル社会で活躍する人材の育成にも努めるなど、これまでの2年間の取組の充実・改善を図るとともに、取組を適切に評価する評価法の開発にも併せて取り組んできました。さらに、今年度は、文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定校を受けている近隣校と連携を図るなど、広がりや深まりのある研究開発を展開してきたところです。

探究活動のモデルとして位置付けている科学部については、「地球温暖化による海面上昇予測」が、中高生国際科学アイデアコンテスト「つくば Science Edge2019」において、「探究指向賞」を受賞し、7月にシンガポールで開催された「Global Link Singapore 2019」に日本代表として出場しました。また、国立研究開発法人科学技術振興機構主催のコンクールである「STI for SDGs アワード」において「次世代賞」を受賞するなど、国内外で高い評価を受けることができました。この研究をはじめとして、地域の課題について探究し、発表力の育成に励む本校の取組は、地域においてもサイエンスの情報発信者としての高い評価を得ているところです。

このように、3年目を終えようとしている現在、SSH校としての一つの形が出来つつあると感じています。

しかしながら、課題も出てきました。生物・地学に偏りがちな探究活動テーマの視野の広がりや学校設定科目の新たな開発、英語力の向上、更なる授業改善などです。これらを、4年目を迎えての課題として位置付け、一層研究を深めていきたいと考えておりますので、本実施報告書を御高覧いただき、御教示いただきたいと存じます。

最後になりましたが、研究開発の推進にあたり、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構、運営指導委員会及び熊本県教育委員会をはじめ、多くの関係機関の皆様方の御指導・御支援を頂いたことに心より感謝申し上げます。